

- 2016. Nov -

Special
kessyomo

一人ひとりが平和のかけら
peace by piece

設立15周年記念誌
TERRA RENAISSANCE 15TH ANNIVERSARY, MEMORIAL MAGAZINE.

* 結 晶 母 *

テラルネ

P04. 活動 15 年の総覧

- P04-05 すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現を目指して
- P06-09 テラ・ルネッサンス活動の 15 年 平和に向けた一歩踏みしめて

P12. 海外事業の 15 年

- P12-P15 アジアとアフリカ支援の本質に迫ったそれぞれの 15 年
- P16-P17 自立を果たした受益者からのメッセージ
- P18-P19 政策提言コラム、現地関係者からのメッセージ

P22. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P22-P23 社会の視点とテラ・ルネッサンス
阿部守一（長野県知事）、西水美恵子（元世界銀行副総裁）、
田口ランディ（作家）、塚越寛（伊那食品工業株式会社）
- P24-P25 非営利セクターの視点とテラ・ルネッサンス
岩附由香（認定 NPO 法人 ACE）、駒崎弘樹（認定 NPO 法人フローレンス）
柏木宏（NPO 法人関西 NGO 協議会）、根本かおる（国連広報センター）
- P26-P27 協働の視点とテラ・ルネッサンス
木下正義（株式会社クリスタル）、黒川芳秋（株式会社 Kurokawa）

P28. 国内事業の 15 年、パート I

- P28-P29 モノがめぐる、想いがめぐる。めぐるプロジェクト
- P32-P33 大脳からひと針ひと針、想いを込めて。大脳復興刺し子プロジェクト
- P34. テラルネグッス（物販）
- P36. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（支援者の声）

P36. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P36-P38 共感の視点とテラ・ルネッサンス
人見康裕（株式会社ヒトミ）、大浦敬子（ビュア・サポートグループ / 医療法人社団大浦会 理事長）
鈴木啓（株式会社良品計画）、池田郁子（会社員）
横山英樹（株式会社 NPS 成田予備校 / テラ・ルネッサンス千葉）
安里佳世子（大阪府立佐野高等学校）、西宮公平（秋田海陸運送株式会社）

P42. 国内事業の 15 年、パート 2

- P42-P43 講演でみつけたわたしの勇気
- P44-P45 未来を拓くファンドレイジング

P46. テラ・ルネッサンスへ想いを寄せて（応援メッセージ）

- P46-P47 インターンの視点とテラ・ルネッサンス
- P50-P51 内側の視点とテラ・ルネッサンス

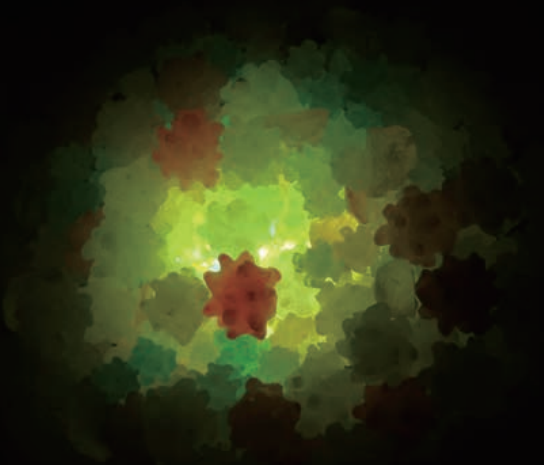
P54. 協賛パートナー

すべての人たちの「できること」と「できないこと」が、
まるで、凸凹が組み合わせるように、お互いを補い合い、
テラ・ルネッサンスは、15 年という一つの歴史を
積み上げることができました。

しかし、その凸と凹は、
機械のようにピッタリと合わさるものではなく、
その隙間にこそ、デジタルな論理だけでは説明できない、
「何か」大切な価値があると考えています。

有機的につながる自然界のように、一人ひとりのカケラは
多様な人たちとつながり合い、その時々で、
平和のカタチを明らかにしてくれるのです。

常に変化し続ける、光と影の中で、これからも
テラ・ルネッサンスらしさを忘れず、
豊かな時間を重ねていきたいと思います。





アジアとアフリカ

支援の本質に迫った

それぞれの15年

お金のために
地雷原で働く人たち

小川 テラ・ルネッサンスにとって、初めての海外事業はカンボジアから始まったわけですが、この15年を振り返って、現地ではどんな変化がありましたか？

江角 元々、地雷除去の支援から始めたのですが、それだけでは現地のニーズを満たせないということがわかり、地雷被害者を減らすための取り組みを始めるようになりました。つまり、地雷があることを知っていても、地雷原に入っても、そこで被害にあってしまう人がいたのです。ですので、まずは、地雷被害者ゼロを目指す方針を政府も出していて、私たちも住民たちが被害にあわないために、地雷埋設地域での村落開発に力を入れてきました。

小川 そもそも、なぜ、住民たちは危険を侵してまで地雷原に入っていたのでしょうか？ 私は以前、日々の食べ物さえまかならず、地雷原に入っても畑を耕して食料を生産しなければならぬ状況があると聞きました。

江角 そういう側面もあります。しかし、実際には、自給食料を生産するためではなくて、換金作物を栽培するために、貧しい人たちは、命を落とすリスクを負いながら、地雷原に入って耕作していました。

地雷のリスクから、
グローバル経済のリスクへ

小川 なるほど。現金収入が必要だったということですか。今は地雷除去も進んで、安全な土地も増えたので、貧困層の生活は、昔に比べて良くなっているのですか？

江角 たしかに、この15年で新たな土地が開墾されましたが、貧しい人たちの生活が良くなったとは言えません。むしろ、広大な土地を持つ裕福層と、そうでない貧困層との経済格差が広がり、底辺の人々の生活は、さらに厳しい状況になっています。

小川 どうしてですか？

江角 例えば、カンボジアでは、エタノールの原料となるカッサバ（芋）を換金作物として栽培して、中国企業などが買い取っているのですが、多くの貧困層は農機レンタルや、種子購入などのために借金をしています。それでうまく収入が得られればいいのですが、実際には収支バランスが合わず、思うような収入を得ることができていません。それで、借金が返せず、担保にしている土地を取り上げられることも、しばしば起こっています。

小川 それで、結局、裕福層の畑を耕すか、タイに出稼ぎに行きながら、最低限の暮らしに戻らざるを得ないという？

江角 そうです。ある意味、地雷の脅威

（リスク）からは逃れることができたかもしれないけれど、経済のグローバリズムという新たなリスクに直面しているということです。これがこの15年の大きな変化の一つだと思います。

対象地域の人々の
自立と自治を促進する

小川 なるほど。地雷は紛争により発生した問題ですが、今、直面している問題は、むしろ紛争後の復興・開発の文脈で発生している問題ですから、私たち援助する側が真剣に考えないといけないことですよ。

江角 江角さん自身、約10年、現地で主に地雷被害者への援助活動を行ってきた、その現場から学んだことはありますか？

江角 対象地域の人々の自立と自治を促進していくことが最も大切だという学びです。（※注釈参照。地雷被害者や貧困層に対して対処療法的な支援ではなくて、自立するまできめ細かく支援すること、そして、コミュニティの人々が自分の頭で考えて、自ら抱える課題に取り組めるような環境を作っていくということが、いかに大事だったかということです。）

小川 なるほど。国づくりも、まずは、地域やコミュニティの人々の自立や自治が重要になってくるということですね。

主体性を維持しながら、
周囲の国々との関係性を
築いていくこと

江角 そうです。それが草の根で活動する私たちの役割だと思っています。小川さんは、アフリカでの15年を振り返ってどんな変化を感じますか？ 昨今、よく「成長するアフリカ」などという言葉聞きますが、実際、どうなんですか？

小川 たしかに2000年代以降、アフリカの産油国は著しい経済成長を遂げましたが、一方、国の経済は成長しても、国内の貧しい人々の生活水準は上がっていないという事実もあります。ある意味、カンボジアと同じように、グローバル経済との繋がりが大きくなるにつれ、その負の側面がアフリカでも浮き彫りになっていることは実感します。

江角 特に、アフリカは植民地支配の影響も重なり、独立後、半世紀以上、資源と原料の輸出に依存する経済構造から脱却することができていますよね。根が深いように思います。

小川 アフリカの場合、極端に欧米諸国の援助に依存してきたので、国の自治（自分たちの国のことを自分たちで決めること）すら難しい状況がありました。結果、今の



小川 真吾

おがわ しんご ● 大学卒業後、青年海外協力隊員としてハンガリーに派遣、旧ユーゴ諸国とのスポーツを通じた平和親善活動などに取り組む。帰国後、カナダ留学などを経て2005年より、テラ・ルネッサンス、ウガンダ駐在代表。ウガンダ及びコンゴ民主共和国における元子ども兵の社会復帰支援事業などに従事し、2011年より、テラ・ルネッサンスの理事長に就任。



江角 泰

えずみ たい ● 大学在学中、テラ・ルネッサンスのカンボジア・スタディーツアーに参加。京都で大学院に通いながら、2年間テラ・ルネッサンスでインターンを経験。2006年に職員となり、2008年よりカンボジアに駐在。カンボジア及びラオス事業の運営に携わる。カンボジア駐在代表。



写真：上 ●カンボジアの自給食料のための家庭菜園の様子。地雷撤去後の土地において、安心して作物を栽培することができるようになりました。
写真：左 ●ウガンダの元子ども兵社会復帰支援センターにおいて、洋裁の訓練に取り組む女性たち。紛争に巻き込まれた過去を、少しずつ乗り越えていく力強い姿に、一人ひとりに内在する『未来をつくる力』を感じます。

ような経済構造が続いているという側面もあります。昨今は、中国のアフリカ進出に伴って、アフリカの政治家たちも、うまくバランスをとりながら外交努力を進めているようにも見えます。ただ、いずれにしても、国としての主体的な意思決定が阻害されない程度に、大国や周辺国との関係性を築いていくことが重要なんだと思います。

江角 なるほど。そんな変容するアフリカ社会で、10年以上、実際に活動を行なってきた、逆に、小川さん自身が、アフリカの人たちから学んだ素晴らしい点などはありませんか？

アフリカの人々の適応能力の高さ

小川 一つは、「様々なリスクに対する、しなやかな適応能力の高さ、素晴らしさ」です。アフリカの人々は、紛争や、貧困、犯罪、失業、政治不安、クーデター、感染症、難民の流入、自然災害などなど、数え切れないほど様々なリスクに囲まれて生活しています。

しかし、それらのリスクに晒されながらも、どうにかして日々を生き抜いているアフリカ人のダイナミックで、柔軟性に富んだ適応能力の高さには、何度も驚かされましたから。

江角 特に、社会復帰を果たしていった元

レジリエンスは、システムの特性を含んだ概念

小川 レジリエンスとは、まさに、そのようなシステムの特性を含んだ概念ですからね。有機的なつながりを考慮しながら、ホリスティックな視点を持つことがレジリエンスを高める上で大事な視点だと思います。

江角 今のグローバル社会で、リスクゼロはあり得ませんから、私たち日本人もこれからは、回避すべきリスクと、向き合うべきリスクを見定めながら、レジリエンスを向上していくことが必要なのではないでしょうか。アフリカの現場からの大きな学びですね。

小川 そうですね。同時に、レジリエンスの概念は、日本的な価値観と親和性を持っていますから、私たちも日本のNGOとして果たせる役割は大きいと思っています。

江角 カンボジアにおいても、レジリエンスの概念はとても大切だと思います。グローバル化のリスクに晒されながらも、対象地域に内在する様々な資源を活かしながら、一人ひとりのレジリエンスを向上していきたいと思います。

小川 これまで15年間、私たちが現場で学んだことを活かしながら、これからも、対象地域の人々の自立と自治を目指して現場活動を続けていきたいと思います。

江角 今後、日本的な国際協力のあり方や

子ども兵たちの変化には、私も驚きました。

小川 10年前に受け入れた元子ども兵の中には、今は家族だけでなく、コミュニティの貧困層を支援したり、コミュニティのリーダーを務めたりしている者もいるくらいですからね。子ども時代に10年もの期間、兵士として駆り出されていたことを考えると、彼ら彼女らの社会に適応していくチカラは相当なものです。

江角 もし、日本だったら、アフリカ人が抱えるリスクの一つでもあれば、パニックになつて社会が混乱してしまいそうですね。

小川 アフリカの人たちは無数の複合的なリスクに直面していますが、それに対して、「あれがダメなら、とりあえず、こうしてみよう」というふうに、一つの対応策が有効でなければ、瞬時に別のやり方をトライするということを繰り返しているの、日本人から見れば適当に対応しているように見えるかもしれませんが、実はその方が結果的に合理的だったりすることもあるわけです。

江角 なるほど。ある場所（人）がダメになつても、それを他の場所（人）がカバーして、全体として危機やリスクに適応するシステムのようなものがある有機的に機能しているのかもしれないですね。

援助手法が、世界にとっても重要だと私は考えています。

小川 同感です。ぜひ、テラルネットワークとしてもその一翼を担えるように、できることを続けていきたいと思います！

＊注釈＊ 私たちの考える自立と自治

自立（じりつ） ●自立という言葉は辞書で引くと、「他への従属から離れて独り立ちすること」とありますが、私たちの考えている自立とは、周りから自分を切り離して、独りで立つ（独立）とは同義だとは思っていません。むしろ、周囲との関係性の中で、自らの力で自分らしく生きることだと捉えています。例えると、植物が周囲の環境との関係性（バランス）の中で、それぞれが多様に成長して生きているような状態です。

自治（じち） ●私たちの考える自治とは、「自分の将来や、地域の課題、国の未来について主体的に取り組む『責任と権限』を持つこと」です。自らが変革の主体者として、社会の課題に関心を持つことが、自治への第一歩だと思っています。国全体にとって本当に望ましい決定（社会的選択）をするためには、選挙をして代表者に任せるだけではなくであり、市民が主体的に関わっていくことが重要だと考えています。

レジリエンス

彼らはかつてその瞳に光を失っていた

「できたよ」

そういつて見せてくれたのは、

色鮮やかな服や、

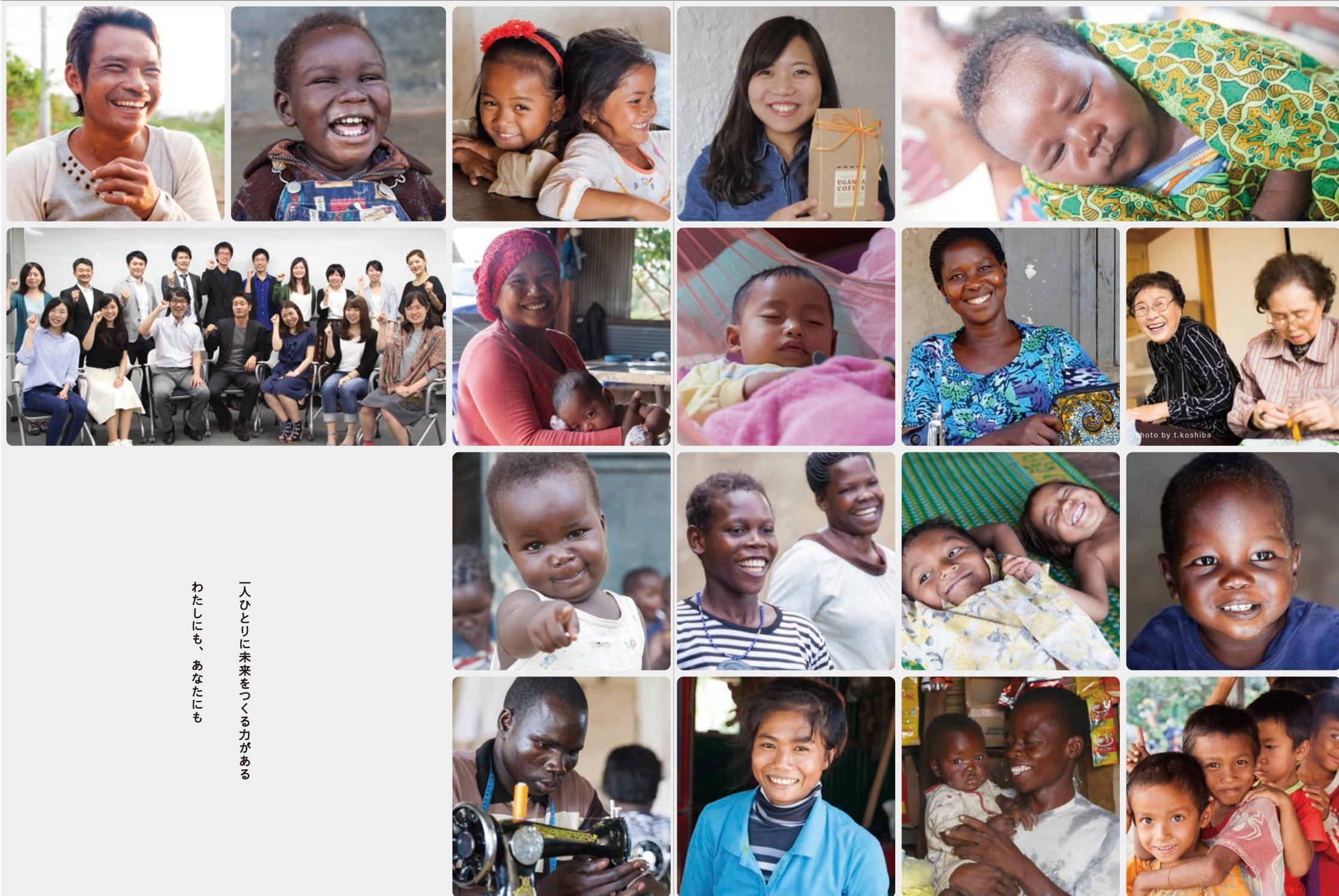
色とりどりの野菜

自信に満ちた、とびきりの笑顔

レジリエンスの本当の意味を教えてくれた



レジリエンスとは ... 困難な状況に直面した時、自らに内在する多様なチカラと周囲との関係性の中で、それを乗り越えていく適応能力を言い、私たちが大切にする支援のあり方です。



一人ひとりに未来をつくる力がある
 わたしにも、あなたにも



お試し読みをいただき、
ありがとうございました！

ファンクラブ会員に
お申し込みいただくと、
冊子の続きをご覧いただけます。

ぜひ、この機会に
ファンクラブ会員として、
テラ・ルネッサンスの活動に
ご参加いただけると嬉しいです。

お申し込みは、ホームページや
お電話でも受け付けができます。

075-741-8786
(月 - 土, 10:00-18:00)

あなたのご参加を、
お待ちしております！

↓ URLをコピーして、検索ができます。↓

<https://www.terra-r.jp/member/fan-club-form.html>



*I was born in 2001.10.31
Thank you for 15th anniversary
25th of fellow is you
Terra Renaissance
2016.10.31*



ひとり一人に未来をつくる力がある
認定NPO法人 テラ・ルネッサンス

認定NPO法人テラ・ルネッサンス 公式サイト【 www.terra-r.jp 】 フェイスブック【 [terra.ngo](https://www.facebook.com/terra.ngo) 】 ツイッター【 [@terra_ngo](https://twitter.com/terra_ngo) 】
〒600-8191 京都府京都市下京区五条高倉角堺町21番地 jimukinoueda bldg. 403号室 TEL : 075-741-8786 E-mail : contact@terra-r.jp